

2005年度認定審査サマリーレポート

2005年度の審査の結果、新規に申請された中から58教育機関の95プログラムが認定されました。

この内、5年認定となったものが22プログラム、2年後に中間審査が必要とされたものが73プログラムでした。また、2003年度に認定されたプログラムのうち、59プログラムに対し中間審査を実施しました。中間審査では書類審査、または実地審査を行った結果、いずれも改善が認められて残り期間の認定が認められました。

以上の認定により、2001年度に認定を開始してからの認定プログラムの総数は、125教育機関で281プログラムになりました。認定プログラムからの修了生の累計は約3万人に達しています。

JABEEの認定・審査は、16技術分野の分野別審査委員会と正会員89専門学協会の協力を得て実施されています。2005年度の新規および中間審査は416名の審査員によって行われました。また、264名の審査員候補者がオブザーバとして、審査に参加する機会が与えられました。審査員・オブザーバのうち産業界の経験者は206名でした。適確な審査を実施するため、審査員に対して一泊二日の事前研修会を2度開催し、180名が参加しました。

2005年度に申請したうち、約4割の教育機関は複数プログラムを申請しておりました。この内8教育機関で同日審査を行い、今後の審査の改善点等の把握に努めました。

審査チームの審査報告は各分野の分野別審査委員会で調整され「分野別審査報告書」としてJABEEの認定・審査調整委員会に提出されました。認定・審査調整委員会は、2日間に及ぶ審議・調整を2回実施し、分野間を含め全体の調整を行い、「最終審査報告書」を認定委員会に提出しました。認定委員会は、この最終審査報告書に基づき認定の可否と認定期間を決定しました。

JABEEは、2003-2004度実施されたワシントン協定加盟のための審査で、エンジニアリング・デザインに関する教育、評価に対して懸念が示されました。このため国際シン

ポジウムやワークショップを通じて議論を重ね、「エンジニアリング・デザインの共通認識」として纏め、審査に反映させました。2005年度の認定では、多くのプログラムでデザイン教育の改善への努力が認められました。

しかし、昨年度に引き続き基準1の学習・教育目標の設定、基準3の教育方法、基準5の学習・教育目標の達成度評価で改善の必要性が指摘されたプログラムが多数ありました。これらの基準項目は教育の質保証上特に重要であり、2年後の中間審査までには改善されるものと期待されます。

また、認定申請を急ぎ過ぎたと判断されるプログラムや、JABEE申請プログラムへのコース分けが、優秀な学生の単なるスクリーニングになっており問題であると指摘されたプログラムもありました。

さらに、「工学（融合複合・新領域）関連分野」の分野要件への適合性に問題があると指摘された例がありました。工学（融合複合・新領域）関連分野に対する高等教育機関や産業界等の関心が高いことを踏まえ、分野別要件の内容・構成や管理の在り方等が問題になりました。

注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科やコースなどの総称です。